

<八代市／住民>

日 時：令和2年10月22日（木）10時00分～12時15分

会 場：八代市坂本地域福祉センター

参加者：34名

【発言者①】

〇〇でございます。どうぞよろしく願いいたします。

今度の豪雨災害におきまして、国道あたりは深いところで5メートル以上冠水をしておりますし、ここの下、道の駅も比較的、高いところがございますけれども、それでも2メートル50以上の冠水がございましたこれからこういう災害を防ぐには、川底の浚渫も大事かと思えますけれども、またこれを超えるような築堤ができるのかというのが、また大きな問題ではあるとは思います。

かと言って、降る雨をコントロールすることもできないわけでございますので、なんとかどこかにストックするとか、そのような感じで、この豪雨災害の球磨川の氾濫を止めていただくことができればな、というふうに思っております。

【発言者②】

本日は当会を開催していただき、本当にありがとうございました。私は住民自治協議会〇〇の〇〇でございます。

7月豪雨の災害後、坂本町8か所にあります振興会ごとに、懇談会での被災状況と今後の生活への要望等を聞き取って、私個人的な思いを申し述べます。

今回の豪雨災害で球磨川本流沿いにお住いの方達たちと、それから支流の居住者との被災具合の格差は歴然たるものがございます。被災後の対応の遅れとしまして、被災による道路寸断での遅れ、これが大きな要因だったと思っております。私、今年で70歳になりましたが、私は19歳から35歳までは埼玉県にあります製紙工場の方に勤務してました。幼少期から現在に至るまで私の住む地域の県道でございますけれども、道幅は昔からのまま狭い道です。八代市の工場へ転勤いたしまして、40分ぐらいの車通勤の時間ではございましたけれども、関東に住んでいた経験から、何の苦勞も感じていませんでしたけれども、幸い狭い道でも事故にはあいませんでした。ただ、やっぱり、ひやっとしたことが幾度もありました。私の要望としましては、二車線化の道路の整備を、災害時でもすぐ対応できるバイパス道路を計画して施行していただき、これから車社会から地域が取り残されないようなまちづくりをぜひ推し進めていただきたいと、切にお願いいたします。

【発言者③】

坂本町住民自治協議会〇〇の〇〇です。

今回7月の豪雨で甚大な被害を受けました。自然界の恐ろしさというのを身をもって体験をしたわけですが、今、県の方でもいろいろ治水対策を検討をされているということです。もし、今後もあのような大規模な洪水が起きたらまずは命を守るという対策が必要かと私は思います。

逃げる、避難できる手段、その環境を作ることが大事だと思っております。今回は道路が冠水し欠損しました。それで携帯電話、停電、断水、ほとんどの地区が数日間孤立してしまいました。年寄り、身体に障害のある人達にとっては孤立は大変な命の危険、身体にも大変な苦痛になったと思います。この孤立を防ぐため、迂回路を作ることが一番だと思います。幸い坂本には、林道が数本走っております。でも林道は、入口と出口だけです。その林道に結ぶ短い線でもいいんですけれども、数か所作っていただければ、孤立化というのが減少するかと思っております。その林道を使って八代平野部に下りるのも可能になりますので、ぜひ既存の林道を利用した迂回路の建設を提案をしたいと思っております。よろしくお願いします。

それから2つ目ですけれども、避難所です。今回いくつもの避難所、公民館が浸水・破損・災害を受けました。安心・安全な防災型避難所、今熊本・宇城市の方で4つの防災型避難所が計画されております。そのような防災型避難所を、坂本にも作っていただきたいと思っております。

それから3つ目で、八代支所、消防署、病院などがほとんど全滅しました。そういう主要な部分を複合した施設が、コンパクトビレッジと言っていますけれども、その建設を提案したいと思っております。

候補地の案については、こちらにもあります。坂本のほぼ中心地の山を削って平らにさせていただいて、そこを拠点としたまちづくりをしていけば、私達のキャッチフレーズであります「生き生き笑顔のさかもと」が戻ってくるのではと思っております。

そこだったら、もし国道・県道が破損して通れなくなっても、高速道路にアクセスできるということで、病院等とか緊急患者はその高速道路を使って避難できるということで、これもぜひ複合型のコンパクトビレッジの建設をお願いしたいと思います。

【発言者④】

私は、住民自治の〇〇をしております〇〇です。民生委員でもあります。

私はまず、国道219の早期復旧が町の復興に一番だと考えています。被災された方々は仮設・みなし住宅等に避難され、寂しい生活をおられます。我々

民生委員は、それらの住まいの方々を守り、訪問活動にて心のケアを頑張っていますが、なにぶん八代市内にございます。遠くていつでも行けるところではありません。

また、八竜小、坂本中学校、生徒、学校に避難し通っております。国道219の復興がない限り戻ってこられません。

このままでは子ども達、親は坂本には帰ってきません。坂本から子ども達がいなくなります。これが今の坂本の現状です。

【発言者⑤】

坂本町住民自治協議会の〇〇をしております〇〇と申します。

仕事の方はさかもと温泉センター株式会社で〇〇をさせていただいております。当センターでは今回の水害後、県の入浴支援事業を活用させていただいて、被災された住民の皆様には無料で御利用いただいております。大変にありがとうございます。

八代の仮設住宅から坂本の自宅を片付けされ、その帰りに汗を流して帰っていただいている皆様はまだまだたくさんおられます。さかもと温泉センターは水害後、坂本町内で唯一食事ができてゆっくりくつろげる場となってしまいました。今後長期戦が見込まれる復旧・復興のなかで、住民の皆さんの憩いの場となるように、私達努めてまいるところですけれども、できればこの入浴支援事業を1日でも長く、避難所が閉鎖後も続けていただけないようお願いしたいと思います。

また治水対策についてですが、専門家ではないのでなかなか詳しいことはわかりませんが、近年個人的に思うことは、時々山を歩くことがあるんですけども、山がかなり荒れているというのを感じます。間伐や枝打ちなどがされておらず、ひどい状況になっていると思います。今回水害でかなりの倒木が川に流れ込んで橋の崩壊や被害の拡大などをしたというように思われます。しっかりこれから100年、10年、50年、また更に100年先の治水対策という部分を見ると、その辺の林業からの見直しというのも大切じゃないかなというふうにちょっと感じているところでございます。

【発言者⑥】

おはようございます。坂本町住民自治協議会の〇〇です。

本日は坂本町にお越しいただき、ありがとうございます。発言が苦手ですので、準備してきた文章を読みます。

発災当日、認知症である父が、介護サービスをようやく受けることができると思っていた矢先に、豪雨災害となりました。6日の朝避難指示を受け当日中に避

難と言われ、隣のおばあちゃん、愛犬を連れて避難しました。総合体育館まで3回乗り換えを行い、16時頃到着し、姉の嫁ぎ先に夜避難しました。

父がトイレの方向がわからず、深夜もついていくこととなり、限界を迎えていたところ、9日に地区に電気が通ったということを知り、自宅に戻りました。

居住するには大変で、病院にも行けず電話もつながらず、郵便も届かない状況であったため、坂本支所の方の配慮で、姉の家に介護保険被保険者証を送付する手配をいただきましたが、別の健康福祉地域事務所に他の手続きに行った際、すぐに介護サービスを受けることができるかと尋ねたところ、「ケアマネージャーさんがどうにかしてくれる」との回答で、母が介護の担当者に伝えたら、「そんなこと言われたんですか。ケアマネージャーは何でもできる魔法使いじゃない」と言われました。

父は今現在、デイサービスを利用し、生きがいを見つけています。坂本町は発災前から、県下の高齢化率58%であるのに、介護サービスが受けられず、私以上に大変な思いを受けた方がいます。亡くなった母も認知症で、10年介護し、褥瘡の世話のため、電動式のエアーマットを利用していました。避難したくても避難できない母と、災害が重なったらどうしようと心配した時期がありました。万が一のため、高額な発電機を購入し、備えている方もいます。災害発生時、その他の対応も多いと思いますが、介護施設以外にも自宅介護の大変な思いを御理解いただき、対応できる体制を整えていただきたいと思います。

【発言者⑦】

住民自治協議会〇〇をしています〇〇と申します。

高校生のとき、昭和40年の大水害も経験しました。今回、このような水が出るとは誰一人予想はしておりませんでした。私達も自衛隊の救助によって5日ぶりにやっと避難所へ行くことができました。助けていただいた皆さんに感謝を申し上げます。

まず、思いましたのは電話回線の断絶で連絡が全くとれなかったのが5日間続きました。それでいろいろ地域で話しましたが、衛星電話は線がなくても通じると聞きましたので、ぜひ防災の観点からそういうのを各地区に一つでもいいですから設置していただければありがたいと思います。

それから川の流れですが、ダムがなくなって昔の川に近づいてきましたけれども、今回のこの大雨で、例えば八代の萩原地区あたりでは今までなかったような中州ができています。それだけの土砂がたくさん流れたんだなと思っています。

また、本流に注ぐ支流を山に登って見ますと、非常に崩壊しているところが多ございます。こういうところも森林関係の部局で、早くなんとかかしていただけれ

ばと思っております。

それから、「土地があれば戻ってくつとぼってん」といわれる方もおられます。小学校跡地なんかは、熊本地震のときに、ちょっとひびとか入って避難所が使えなくなっておりました。そういうところを代替地としていただければ、皆さん川沿いの人は、「そこに帰ってきてよかとだけど」といわれる方もいらっしゃいます。

現在、川沿いの方は、私の担当区で50世帯ありますが、20世帯しか帰ってきていません。「はよ帰ろごたつとぼってん」といわれる声もありますけれども、そういう家が建てる場所がないからと悩んでおられる方もたくさんいらっしゃいます。ぜひ、何とかしていただければと思います。

【発言者⑨】

同じく住民自治で〇〇をしております、〇〇といたします。

私は今回の豪雨の被災者の一人として、ちょっと言わせていただきます。

治水の対策の面ですけれども、私はダムがあった方がいいのか、ない方がいいのかというのはわかりません。だけどダムがあっても今度の洪水はあったんじゃないかという感じがします。ダムを作っても同じじゃないかというそういう気がいたします。

それと、私、川辺川に何回か行ったことがあるんですけども、あの川辺川ダムの清流にダムを作るというのは非常に忍びないというような気持ちがいたします。

それから、お願いなんですけれども、これは県の皆さん、関係者の皆さん、市の関係者の皆さんに申し上げたいんですけれども、坂本は非常に高齢者です。今度被災された方々も、非常に高齢者の方が非常に多いんですよ。坂本に帰ってきて家を建てたいとか、こっちに帰りたいとか、そういう方は非常に先ほどもありましたように、多いんです。だけれども時間がないんです、高齢者だから。早く治水対策とか宅地造成、そういうのができるんですしたら、そういうのを早急にしてもらわないと、坂本はさびれる一方じゃないかと思います。そういう意味からの、早い対策、迅速な対策をしていただければ、という感じがします。

【発言者⑩】

市政協力員協議会の〇〇です。ここの荒瀬部落の出身です。うちの地区は約20軒が全壊で6軒が大規模半壊で、私は大規模半壊ですので、この地区では軽い方です。

20軒が出ておりますので、一番私が必要とするのは、道です。道の確保を早くしてください。あと国道、県道。それから2番目に、住まい、住居です。今、

浸かった地帯では住みにならんということですので、そこは地区ごとに住宅地を開いて、帰ってきてもらおうと、そうしなければ、3, 200人だった人口は大体今では千何百人ぐらいになっています。出ている方が多いものですから。できるだけ帰って来てもらって、最低でも2, 500人の人口は維持したいということです。それが2点目です。

3つ目は、行政の中心地というものを一つ作ってもらいたい。どこでも構いませんから高いところに。そこにさっき〇〇も言いましたように、消防署か駐在所、それから各団体を入れた防災センターというような大きな施設を作ってもらえればと思いますので、この3つが復興の、なるだけ2年以内に復興計画を立てて、明るさが出てくれば帰ってくる人も帰りやすいと思いますので。

それから治水に対しては、私は朝3時半ごろ開けてみたら、もう国道が浸かっているわけです。この国道が浸かったということは、荒瀬ダムがあったとき、7, 000トン8, 000トンの水が出たとき浸かっていたわけですね。「こら国道も浸かるとぞ」といいながら、うちにそばの方が、そのとき出た場合は、もう車も出されなかったぐらいであったと。それは球磨川じゃなくて、ここの地帯に100ミリ以上の雨がずっと降り続けてたのがその原因じゃないかと思っておりますが、それと共にやはり治水対策というのが、ダムとそれと他のを合わせなければできないと思う。私は、今の治水対策でどれだけ堤防のかさ上げしても、上に上がっても、水位はまた上に上がってくると思います。

だから、ある程度の今の築堤である程度の水位は保って、それよりも上に上がったときは洪水はしょうがないということで、そういう地帯についてはなるべく住宅は建てないよう指導をしていく必要もあるのではないかと考えております。

遊水地なんかもありますので、そういうことをしたり、または球磨川を、八代の方の下流からずっと川底を掘削してもらえれば、水位も下がってくるんじゃないかと思っておりますので。

私も素人ですから、いろいろな案をもって、治水対策をやってもらえればと思います。これは反対、賛成いろいろあると思いますが、一つの対策では絶対できないと思いますので、総合的な対策を持ってできればと思いますのでよろしく願います。

【発言者⑪】

私、市政協力員をしておりますけれども、私のところは今回、流出しました深水橋の左岸を4 kmほど行った上流に位置しております深水地区というところでございますけれども、幸いにうちの方の地区は人災、それから川の災害等はありませんでした。当日、深水橋が流失したということで、県道を利用して、ライ

ラインになっておりますので、県道を利用して出ないとということで、30名ほど当日の午後集まって、県道の土砂が小さい谷間から流出しておりますので、それを払いのけて行きました。

深水川口というところに行きまして、一応、後で県道の2か所崩落しているということで、これはいかんばいと。

なにせそこが病院とか、通学とかのライフライン、唯一のライフラインになっておりましたので、これはどうしたものかなということで、幸いに林道を開設してありましたので、深水袈裟堂線というところですけども、そこを拡げていこうかということで、またそちらに廻りまして行きました。

そこは開いてはありましたけれども、なんとか通行できるようになりまして、西部大橋のところまでは道を開けて行ったわけですけども、そこがなかったら、恐らく集団避難を余儀なくされていたんだろうなというふうに考えております。

先ほども出ましたけれども、そういうバイパスの整備をぜひやっていただきたいというふうに思います。

他の地域を見ますと、非常に大きな災害がありますので、私どもは、うちあたりはよかほうたいということで、ある程度我慢しておりましたけれども、一番苦労したのは通信手段がなかったということです。先ほども出ておりましたが、そういう、いざというときの通信手段をどうにかやってもらいたいというふうに思います。

【発言者⑫】

市政協力員をやっております〇〇でございます。現在住んでいるところは、西部の今泉地区というところに住んでおります。今回の水害当時、6時前から起きて、やはり周りを見て回ってこれは危ないぞということで、ずっと見ながら車が浸かるようなところにおる人達には車をどけろとか、避難しろとかいうかたちでやっておりますと、どんどん水が上がってきて、一気に水が来たような感じを受けました。

治水の方から、素人考えと皆さんも言っていますけれども、マスコミ等から見ると球磨川流域には大小6つのダムがある。こちらの方は大雨が予想される、線状降水帯等がこちらの方にどんどん向かって、大雨が予想されるということで、今年、国の指針として6月に決まったと思いますけど、事前放流、これを避けるために事前放流をするというのが決まっていたと思うんです、熊本県の今回のダム6つ、これ、いくつやったのかなと。6つのダムの事前の放流が。これをやっとけば貯水率、貯蓄治水、貯水率ですね、これをずっとできる状態だと思うんですよ。

知事がなられたころ、川辺川ダムをやめました。潮谷知事の時ですけれども、そのあとに今の知事さんが引き継いで、じゃ治水対策では川底を浚渫するということだったんですけれども、やはり予算上それはちょっと、できなかったというのが、我々が聞いております。

これを事前放流と川底の浚渫において相当これはカバーできるんじゃないかと思うんですよね。

だからここあたり、もう一度検証していただいて、さて、新たなダムがいいのか、現状のままで考えてきたことを更に深めて、自然を大切にしながらやっていくような、人の命ももちろんですけれども、自然を大切にしながらやっていくことも大事じゃないかと思っております。

そしてまた先ほど言われました山林の植林、これは全国どこでも一緒なんです。まあひどいもんです。間伐をやらないものですから、山の中は荒れ放題。貯水ができませんから、もう即川に流れてきます。大雨が降ればすぐ、小さい谷は溢れるような状態になっています。

このあたりを、やはり長期のビジョンになると思えますけれども、山林と治水というくらい、こういうのを今後からめて考えていただければ、私としてはありがたいと思えます。

【発言者⑬】

市政協力員の〇〇といいます。私も7月の4日、朝からえらい降るなと思いながら、見たところ、ちょっと出ていこうかということで坂本まで来たんです。ところが、もう向いの道も手前の方も交通止めで、もう（聞き取れず）山の上から中腹から見たんです。見たところが、坂本橋がない。情報が入りまして、深水橋もなくなったということ、聞きまして、これは大分やられたなと思って、結局、私が言おうとしてるのは、遊水地といいますか、水が上がったところがどうかなるかなと思ってから、思っていたところです。（聞き取れず）

【発言者⑭】

〇〇です。私達の地区は肥薩線の鎌瀬駅の周りにある下鎌瀬という集落です。25軒の家がありましたが、7月4日では3軒の家が押し流されて、16軒の家は水に浸かって、今、10軒は公費解体を希望しております。

今、鎌瀬で暮らしているのは9軒のみです。人口減少はやむを得ないというふうに思っておりますけれども、大事なことは5年後、10年後、どのような姿を作り上げるかを考えていきたいと思っております。

JRの復興について意見を述べます。JRの復興は絶対に必要だと思っております。鎌瀬の目の前にあった、球磨川第一橋梁という橋がありましたけれども、

流されました。鎌瀬のシンボリックな存在です。全国から写真を撮りに多くの人を訪れていました。

この優れた観光遺産をなくしてしまうことは、大きな損失だろうと思います。優れた観光資源として活かして周辺の整備を整えて、多くの人々がまた訪れるよう努力したいと思っています。どうかJRの復興が進んでいけるように強く要望いたします。

次に公民館の再建について伺います。7月4日の被害をうけて、公民館はサッシ、畳、壁がやられて、修復の見積りをとったところ約300万円必要だと言われました。

ただ、リフォームをして被害にあったその場所に再建する予定ですが、それがよいか、またそれができるのか、かさ上げをしなければいけないのかということで、先が見えておりません。早く方向性を示していただきたいと思っています。

公民館は一つのコミュニティにとっては、なくてはならないものだと思います。坂本村の公民館は60軒あったうちの約20軒が水害被害を受けたというふうにも聞いてます。

公民館に対する補助金について、補助金の額、または工事の事前着工が可能かどうかなど、まだ何も決定されておりません。ぜひ早急に決定していただくようお願いいたします。

【発言者⑭】

私、球磨川の支流の百済来の川に沿って地区がありますけれども、その市政協力員をやっております〇〇です。百済来の支流に流れ込む谷川とか、それにそって百済来地区はほとんどの部落があります。

私の部落は、その川注ぎ込む谷川が奥の方は球磨村、そして芦北です。こちらに越えるところまで入っているわけですが、谷川は大体4kmから5km中に入っています。

今回、私の住んでいるところも戸数的には20戸ばかりあったんですけれども、そのうち土石流が朝の7時から8時ごろの間に一気に流れ込みまして、民家が1軒は流失、それと作業小屋が3軒、床上浸水が4軒、あるいは今度は田んぼが、地区が大体3haぐらいの田畑があるわけですが、そのうちの半分、1.5haあたりが土砂で埋まった。道も崩壊したところが数か所ある。そういう状況でございます。今、一番望んでおりますのが先ほども出ましたけれども、戦後植えられた木が50年、60年ほど経っております。

それが全部川沿いからずっと立っておりますから、今回もそういう木が川の上流部から中流部にかけて数か所にかけて折り重なって川の上に重なっていま

す。それをなんとか早く撤去なり処置しなければまた来年、大水が出たときには、それが部落の下の方まで流れてくる。大きなまた災害になるなど。それと川底です。川底もやはり5mほどあった川の高さが、今ほとんど半分とか2m、1mぐらいになっているところも相当あります。

そういうところも、土砂の撤去等につきましてはやっていただければなというふうに思っております。

それから百済来地区は、今回、孤立しなかったのが国道3号線から県道が二見の方から入っております。幸いに今回、二見、日奈久方面がそんなに大きな雨量が少なかった関係で、二見から百済来、坂本に来る県道が生きていましたから、自衛隊なりそういう支援の方々も入ってこられたわけですがけれども、先ほど、うちの住民自治の〇〇の〇〇も言いましたように、やはりこれが非常に狭いわけです。3号線から入ってくるのが、もう何十年来と要望しておりますけれども、県道の拡張が一向に進まないというような状況でございます。

今回、さすがにこちらの方がそういう害がなかった関係でよかったんですけれども、ぜひいろいろ用地回収とか、難しい点もあると思いますけれども、どうか二見からこっちの坂本までの線、県道の拡張をぜひお願いしておきたいというふうに思います。

【発言者⑮】

田上地区の〇〇と申します。今回の7月の豪雨に際しまして一言申し上げます。私は地区的には百済来地区の〇〇さんと同じ旧百済来村のところに住んでおります。今回の豪雨では、私の家も百済来川が氾濫しまして、それと橋があるんですけれども、これが以前は木の橋だったんですけれども、橋脚があって、そういうときは大抵流れておりました。現在はコンクリート橋ですので、まず流れることはありません。ただ風倒木が橋の欄干の上に引っかかって、そこがダム化し、川向こうの3軒が床下浸水、並びに1軒は床上浸水ギリギリだったということです。それで大変な被害があったんだと改めて思いました。

河川の石垣の件ですけれども、今回の豪雨で石垣が崩落し、今現在1tぐらいの土嚢袋を載せて緊急に崩れを防いでおります。

また、川の流れが直接当たるところなので、これもいち早く復旧してもらいたいと思います。

蟻の一穴と申しますけれども、石が一つでも抜けたらそこはやはり崩落につながるんじゃないかと思っています。

ですから石垣はなるべく石垣ではなくてコンクリート擁壁、そういう擁壁にしてもらえたらいいと思います。

それと今現在国道219号線、多分通ってこられたと思いますけれども、左岸

側の下り線が崩落しまして、確か上り線だけの一車線だったと思います。これはぜひとも梅雨入りまでには矢板等の応急措置をやってもらいたいと思っています。

【発言者⑯】

〇〇と申します。私は市政協力部と小学校のPTAをしております。小学校のPTAという立場と住民の代表という立場から蒲島知事にお願いがございます。坂本町には八竜小学校と坂本中学校という唯一の小学校があります。

7月の豪雨では被害はありませんでしたが、通学路が寸断されてしまいスクールバスでの登下校ができなくなりました。

そのために子ども達は約18km離れた日奈久小学校と日奈久中学校で教室を間借りして現在、授業を受けております。子ども達は長い時間と長い距離を要する通学や自分達の学校で学べないことで心理的不安やストレスを抱えております。

豪雨災害があった4日後だったと思います。7月8日に当時の前防災担当大臣だった武田さんと蒲島知事が避難所である八代の体育館に慰問にいらっしゃいました。そのときに前防災担当大臣だった武田さんが、記者団を前にしてすぐに219号線を通れるようにすると発言をされました。そして219号線の片側1車線や県道の突貫工事ですぐに通れるようにはなりました。しかし、あれから3か月以上経過しましたが、それ以降、大きく道路の復旧工事が進んでいないように思います。未だにスクールバスは通れず、子ども達は八竜小学校、坂本中学校に戻れません。なぜ、道路の復旧工事は進まないのでしょうか。

八竜小学校では部活から移行した社会体育があり、放課後サッカーや陸上で運動していましたが、現在はできておりません。坂本中学校も部活ができておりません。子ども達は運動不足になっております。また、帰宅した子ども達はどうしてもゲームをする時間が増えています。早く子ども達を八竜小学校と坂本中学校へ戻してください。

それだけではありません。坂本町にとって大きな問題があります。現在の八竜小学校と坂本中学校の生徒数は合わせて92名です。そのうちの40名の生徒の自宅がほぼ全壊です。40名の生徒とその家族は坂本を離れ、仮設住宅やみなし住宅等で避難生活を続けております。避難している40名の生徒の保護者は子ども達を八竜小学校、坂本中学校に今後も通わせるべきかどうか今悩んでおります。

来年、お子様を小学校、中学校へ入学させる保護者の方はこのまま入学させていいものかどうか、非常に不安に思っております。

子ども達の八代市街地の学校に通わせようと判断し、保護者ともども子ども

達が坂本から出て行けば、坂本町の少子高齢化は一気に加速してしまいます。

現在でさえも他の市町村より過疎化、少子高齢化が進んで限界集落と呼ばれる地区が多い坂本町で、小中学校の生徒や若い保護者が坂本から出てしまうと、坂本町の将来は期待できません。

どのような立派な復興計画を立てても、子ども達がいなくなれば坂本町の明るい未来はありません。

一日も早く八竜小学校と坂本中学校での授業の再開が必要です。

そのためには、スクールバスが通えるように1日でも早い道路の復旧が必要です。

蒲島知事には国道219号線にスクールバスが通れるように、国に対して強く要望いただけますようお願い申し上げます。

また県道の復旧については、蒲島知事が先頭に立って工事も進めていただきますようお願い申し上げます。

復興よりも復旧を優先してください。

川辺川ダムについてなんですけれども、浚渫とか川幅を拡げたり、増水した水を他のスペースに流すという方法があると思いますけれども、ダムを作るということは、一番最終的な判断として、そしてどうしてもダムを建設しなければならない場合には、治水のみを目的とするものであって、決して利水用としては認めないでください。

利水用であれば水を貯めておく必要が出てきます。常時ダムは開放した状態にしておいて梅雨時や台風シーズンで大雨になったときに初めて川のダムを貯めるようにしてください。

また、河川の護岸工事はセメントで固めてしまうのではなくて、生態系を崩さないように、蛇籠を使った工事をお願いしたいと思います。壊れてしまった自然は元に戻りません。以上です。

今後も被災者の声を聞いていただく機会をぜひまた設けていただきたいと思います。

【発言者⑰】

はい。八代市消防団〇〇兼坂本方面隊〇〇の〇〇です。

豪雨災害から3カ月と半月が過ぎました。被災されました皆様方にはお見舞いを申し上げ、またお亡くなりになりました方にはお悔やみを申し上げます。

坂本支所の総務課の担当者と一緒に各班のポンプ格納庫を巡視いたしました。

坂本方面隊は積載車11台中3台と小型簡易ポンプ55台中14台は土砂に埋まったり、水没したりしております。

また格納庫も土砂が入って扉がシャッターが開かなくなって中に入れな

用不可能な状態であります。

今、何かことが起これば私達はお手上げの状態です。消防団は地域密着型で地域住民の安心安全を守るとというのが使命であります。

これまで災害支援、ボランティア活動、行方不明者の捜索など活動を実施しております。もう既に対策を講じておられることと思いますけれども、一時も早く元の状態に戻してもらえますように、改めてお願いを申し上げる次第であります。どうかよろしく願いいたします。

【発言者⑩】

私は大規模半壊という被害を受けましたけれども、一部2階建てというようなことで2階が残りましたので、その2階を基にして現在は元の家に戻って住んでおります。

電気・水道が復旧した段階からここに戻っているわけですがけれども、家族や周囲の人達はあそこはもう一遍浸かったんだから危ない。だからあそこに戻るとはやめてくれというような、そういう話があったんですけれども、私はもうここでも一番年上かもしれませぬけれども、行く先そんなにないんだから、もう住み慣れたところで住みたい。そういう思いでみんなに迷惑をかけずに生きられるのはここしかない、というふうに思いまして帰ったわけです。

そういう今回の体験でしますと、家は爺さんの代からここにありますので100年になると思いますけれども今回初めてです。

前回の昭和57年の洪水のときから比べたら、そのときは国道まで水が来たぐらいでしたので、やはり4m以上水位、浸水が高くなったかと思うんです。

ですけれども、今回もこの災害は大雨による災害ということで、他の要素がほとんど含まれておりませぬので、もうこれはこれから気候変動で大雨というのはまだ来るだろうと、そしたら必ず今の家は浸かるんだと、そういうふうに浸水するんだというそれがやはり決まってるんじゃないかと思うんです。

それでもそこになぜ住みたいのかというのは、年寄りのエゴなのかわかりませぬけれども、その辺はわかりませぬけれども、そこに住みたいという思いだけで帰っているわけです。

そういった中でじゃあ何が必要なんだろうかといったら、やはり安全な安心な避難場所です。それがやはり一番大事じゃないかと思うんです。

今回はいち早くヘリコプターで救助されまして、千丁公民館に避難しましたけれども、私は過去の水害とかそういうものを体験してずっとおります。

自分の家は浸かっておりませぬけれども、周囲が浸かったのをずっと見てきておりますので、水害というのは逃げるしかないんです。

ですから、やはり安全・安心な避難場所というものを作っていただく。

他の問題いっぱいあります。確かに、だからそれは皆さんがおっしゃっておられますので、そういうことはぜひお願いしたい。

【発言者⑱】

八代市PTA連絡協議会の〇〇と申します。本日は蒲島知事が坂本町までお越しいただきましてありがとうございます。

子ども達を育てる保護者としての目線でお話をさせていただければと思いますけれども、先ほども市政協力員協議会の〇〇さんの方からも話があったかと思えますけれども、やはり保護者としては学校の再開です。坂本中学校、八童小学校、今後いつ今の場所で再開できるかというのが一番の大きなところであって、あとはやはり子ども達は今、日奈久小中学校の方で学校生活を送っておりますけれども、やはり気を使いながら、小さいなりにストレスを感じながらやはり学校生活を送っているんじゃないかと思って、身体的にも学力的にも低下するというのが非常に、そういうことになってはいけないことだからですね、その辺を早く子ども達にも元のところに戻してあげて、そして気持ちよい学校生活を送らせてあげたいというのが一番の保護者としての気持ちと思っております。

それともう一つは通学の件なんですけれども、高校生から大学生を持っている家庭からしてみると、今回のJRが不通になったことに対して送迎等がかなり負担になっている状態であって、あと、そのまま坂本町以外に避難されている方は通学ができない状態であれば、今後、坂本に帰るとというのがどうなんだろうというのが考えられて、坂本が今後やはり同じような被害があるのであればというのが頭から離れずに、実際、坂本に帰っていいのだろうかということもやはり考えられている状態で、今後どうしたらいいのかというのはまだ判断がつけられないという方が結構多くいらっしゃるという状態であります。

あとは安全に住める場所というのがまず一番の、保護者としてはこれから未来ある子ども達を育てるのに一番、安全というのをやはり重視していると考えていただければと思っております。

それともう一つですけれども、災害時の連絡網として県のホームページとかもあるんですけれども、みんながなかなかホームページを見るという習慣がなかったりとか、見る手段がなかったりなんかするんですけれども、特に私達今回被害にあったときは連絡が全然もう途絶えてしまった状態で今現状どういうふうな状態になっているのかというのは2日間ぐらい全くわからなかった状態です。

電波さえ入ればそういう情報は入ってくるんですけれども、電波が入ったあとに避難所、総合体育館や公民館に避難した場合はいろいろな情報は入ってくるかもしれませんが、親戚・知人宅に避難した場合、こういうときは情報

は今回、私もですけれども、今でも4か月経っていますけれども、まだ親戚宅に避難している状態ですけれども、情報が最初のうちはほとんど入ってこなかった状態です。

どうしたらいいのか、あるいは支援物資とかも全く親戚とかに避難した場合は入ってこなかった状態というのが続いておりました。

ホームページだけではなく、SNSはFacebookとかInstagramとかもありますけれども、やはり誰でも一番たくさん利用しているLINEというのが今ある状態ですので、こちらの方は誰でも、子どもからお年寄りの方でもLINEというのは手軽にアプリとか入手できるものだから、そういうので簡単に情報が見られるような。そういうのを作っていただければと思っています。

主な坂本の安全に住める場所をできるだけ1日も早く、いつぐらいまでにはというのを日にち、目途を立てていただければ私達も再建の方が考えやすくなるんじゃないかと思っておりますので、ぜひそのようによろしくお願いいたします。

【発言者⑳】

はい、球磨川下流にあたる太田郷校区の〇〇でございます。平野部としての意見を述べさせていただきます。今回の7月豪雨によりまして上中流部では尊い人命とそして貴重な財産が一瞬にして奪われたところで大変、残念に思います。1日も早く皆さんが元の生活に戻れるよう最大の御努力をお願いを申し上げたいというふうに思います。

その上中流からの洪水は、人吉、球磨、そして坂本の山間部を一気に駆け抜けまして私どもが住む八代平野を襲うこととなります。

したがって、下流部といたしましては、何よりも大洪水に耐える堤防の強化、これが不可欠だというふうに認識をいたしているところでございます。

特に平野部における治水の要、これは昔から加藤清正公が築られました杭瀬とかあるいは天神ばねとかそういった萩原一帯であるというふうに思います。

今回の大洪水ではその萩原堤につきましては危機一髪ギリギリの状態でなんとか急場をしのいだというところでございます。

仮にこの堤防が決壊をしたと仮定するならば、先ほどの資料にもございましたとおり、中心市街地は壊滅的な大惨事だったということが想定をされるところでございます。

したがって、今一度萩原堤一帯、例えば深堀対策とか河床の安定とかそのようなことにつきましても検証はされるというふうには思いますが、ぜひともよろしくお願い申し上げたいと思います。

なお、萩原地域一帯はもう御存知のとおりだと思いますが、河川緑地、21h

aの基盤型高と大体同じような土砂等の堆積が相当ございます。したがって、市民に一番目に触れるところでもあります。したがって、いろんな諸問題もあろうかと思いますが、土砂の浚渫等につきましても、最大の御努力をお願いを申し上げます。また今回の災害につきましても、百年とか千年とか一度の大洪水というふうにも言われておりますが、科学的データによってダム建設が必要とするならば、ダム建設はもとより、あらゆる角度から検証いただいて、そして総合的な判断をお下しいたいただきますようお願いを申し上げます。

最後になりますけれども、今回はこのような大惨事になりましたが、私どもは昔から球磨川というのは母なる川でございます。したがって復旧・復興にあたられますには、川を活かした街づくり、川を活かした諸産業の振興、これらについてもテーマの一つとして、掲げていただきまして川と人との交流、これを含めた全般的な治水対策についても御検討いただければ大変ありがたいと思っております。よろしくをお願い申し上げます。

【発言者⑳】

この度は水害で坂本地区の皆様方には大変な災害に遭われまして、深くお見舞い申し上げます。私は下流に住んでおります。植柳地区におります。我々の幼少時代には球磨川というのは流れが速くその流れで体を鍛えて、育ってきたわけですがけれども、それが今では、先ほどから坂本の皆さん方言われましたように、土砂が大分下流の方に蓄積しまして、八代の処理場近くの海なんか土砂が埋まって、漁師とか遊漁船の通る道も土砂で埋まって、そして今までは干潮でも悠々と通られたわけですがけれども、今は干潮時期になりますと、船も通れなくて時間を調整しながら、満ちてきたのを見ながら船を出すというような感じで今やっております。

今、植柳地区の堤防沿いも、もうほとんど土砂が埋まって支流も少ないほどの水量で流れております。堤防がありますけれども、堤防も幅が大体10m前後ぐらいはあります。

今回の災害で水が、堤防が今2段作りになっておりますけれども、その2段よりも上まで上がって、水位が上がって、そしてそれを越して湧き水みたいに飲んでも大丈夫なようなきれいな水が堤防の裏から流れ込んできました。

それで蟻の穴でもあればこういうことをいうのかなと思って、皆さん方も大分心配されました。

それで護岸工事なんかもうちょっと力を入れて、そういう感じがありますので、護岸工事もよろしく願いしたいと思います。

【発言者⑳】

麦島校区の〇〇といいます。麦島校区は球磨川の下流にあって三角州になっております。周りを川に囲まれて、その大雨の度に心配をしている土地です。

まず、豪雨災害からの復旧復興について、私の個人の意見を述べたいと思います。先日、球磨村の村民アンケートというのが新聞に載っておりました。その結果、9割の方が村に戻りたいと言っておられます。多分坂本町でも同じだろうと思います。村に対しての深い愛着がある一方で、復旧が見通せない現状や、復興への不安もあると思われます。

そこで、熊本県として、あるいは国として、早急に具体的なビジョンを示して、住民が判断できるようにしてやらなければならないんじゃないかと思います。また、村民アンケートでは、若者の意見、気持ちというのが載っていませんでしたけれども、高校、あるいは大学、各種学校を卒業した後、働き口が地元でない状態では多分地元を離れるでしょう。そうすると数十年後、坂本町は消滅する町になっていくかもしれません。他の市町村も同じような運命にあります。だからどうしても働き口をなんとかして作らないと若者は残らないと思います。

次に、球磨川の治水対策についてですけれども、専門家ではないのでよくわかりません。はっきり言って。今日、資料も貰いましたけれども、人の命を守るために、科学的な検証を基に十分検討していただければと思っています。

【発言者㉑】

最後ですか。最後の30分、喋らせてもらおうかと、すみません。3分ですね。3分という制限がございますので、書いてきましたので、読ませていただきます。

蒲島知事におかれましては、日頃から八代市の地域の振興にお力添えをいただき、心からお礼申し上げます。また、今回の豪雨災害からの復旧、復興に向けて、地域住民の意見を聞く会に御案内をいただき、感謝申し上げます。

皆様、御存知のとおり、ここ坂本町では何ものにも代えがたい尊い命、貴重な財産や住まいなどが洪水によって失われてしまいました。御冥福、お見舞いを申し上げますことしかできません。

坂本町の復旧、復興に対する意見で申し上げますと、人、物、金が必要であります。人は、知恵を出し、地域の皆さんが共同で町作りを行います。新しい防災施設などの物を作ったり、いろいろな物を復旧、復興させる。それにはやはりお金がかかります。よりよい復旧、復興となるためにはぜひ、金銭的な支援をはじめ、幅広い支援をお願いしたいと思います。

次に治水対策であります。私は金剛校区から参加いたしております。球磨川が八代海に注ぐ最下流に位置する町でございます。南側、球磨川、そして八代海に囲まれている地域でございます。台風や熊本地震のことを思いますと、川から

の水と同じように八代海の高潮、津波、そういった冬の水も大変心配する地域であります。今回の豪雨では、金剛校区の展望も心配いたしました。

もし、そのようなときに地震が発生していたとしたらどうなったのでしょうか。備えは安全でなければなりません。やはり、何よりも大切な命、財産を守るためには堤防を強く、高くしたり、幅を広げたり、川を掘るなど、いろいろな方法で治水対策を行っていただきたいとそう思っております。

最後になりますが、雨は自然災害、水害は社会現象という言葉がありますので、申し添えておきます。失礼いたしました。

【発言者⑭】

私は下流の宮地校区の〇〇と申します。

7ページをお開けいただきたいと思うんですが、写真でよく写っていますが、私はこの隣の古麓町内の堤防沿いで生活しています。

この前の豪雨でもものすごく心配して、堤防がもてるかなとも思ったんですが、この写真で見ますように、掘削と書いてあります。これは全然掘削されていません。今はこの球磨川の中州ですが、ここに今雑草が生え、中には木も生えている。昔からほとんど手がつけておられません。私達が学生時代はまだ、この半分しか幅はありませんでした。流れが早くてですね。

ちょっと上の白いところも今はここも浅くなって、ここは全国花火の会場になっています。全国花火が大事か、掘削が大事かです。やはり坂本の人先ほど言われていましたけれども、かさ上げじゃなく、昔の高さと同じようにすればほとんどダムも要りませんし、流れもそういう被害がないと思うんです。皆さん、先ほど言われました昭和40年の水害のときには、萩原橋の近くのある旅館が流出したのですが、私はこの上の萩原地区、ここは太田郷校区ですが、八代駅でございますが、ここの古麓町が決壊したならば、八代駅、日本製紙、8ページにある千丁までかなりの被害が及ぶと思います。

令和2年7月洪水の状況、この写真です。この写真を見て、この左側、肥薩線と鹿児島本線が走ってます。そのちょっと左は、ここは田んぼでございます。田んぼは球磨川水位が上がった場合、今、堤防の真ん中付近にウォーキングができたり、ランニングができたり、幅があります。

球磨川の水位がそこまで上がったら、古麓町内の田んぼがこういうふうに全滅でございます。田植え後だったものですから、この被害が2週間しかなかったから、田植えをまたやり直しです。被害届を出しております。

だから、このちょっと上に白い建物がありますが、これは八代水源でございます。八代水源が老朽化して、ここまで被害してない、八代市の小中高校、大学、全部一般家庭までが全部ストップしてしまうと思います。だからこの古麓の間、

田んぼが浸かっているところ、ここは恐らく漏水や浸水です。球磨川が水位が水害じゃない時期でもいつも浸かってしまいます。一応、現状見に来ていただければ、農家組合の人と説明しています。私達の肩の高さまで浸かってしまいます。だから、この球磨川の流れをよく知って浚渫をぜひお願いしたいと思います。萩原橋から、古麓、この上のちょっとオレンジ色、ここまで矢板を6、7年かけて打ってもらったんですが、下の方はいいんですが、堤防沿いが一番危ないというような現状でございます。だから、ここをぜひ掘削して流れがよくなるようにお願いしたいと思います。

【発言者⑳】

紹介にありました、〇〇でございます。

私達8校区はあるところをずっと住民の声を聞きながら回ったわけでございまして、部会のなかでも、対策あたりを練り、検討してきたところでございます。今は、かなり多くの方が発言されまして、ほとんど残りもなくなったようでございますけれども、私がこの災害で感じたこと、応援の人達が大分入ってまいりましたけれども、道路が狭くて、重機あたりの運搬がなかなかうまくいかなくて、そういうことで思い切ったことをやらんとだめだなと思って、鶴喰から八代の市街地、トンネルを掘って広い道路をボンと通して、こういうことをやらんと、とても今の道路状況では無理だなと思います。それと今度の雨は想定外でした。それに対しては、想定外の対策をやっていかないかないといかんのじゃなかろうかと思って、突飛な話ですが、球磨川から海の方にトンネルを掘って、水を抜かず道、こういうのもいかがでしょうか。ダムを作るよりも少ない金額でできるんじゃないかと思います。いろいろと問題点はあるかと思いますが、そこはやはりクリアしていただかねばいけないと思います。

それからもう一つは、先ほど話しもありましたが、山林伐採、これについてなんですが、現在、伐採が重機でやっておりましたので、山に道路を作りながら伐採しております。その後は、そのまま残っております、ここから山の崩壊が始まるわけです。今度の水害でもものすごく流木が多かった。これはやはりこの山林の崩壊によって、流木が増えたんだと、それでやはり掘削したなら元に戻す。埋め戻しあたりを必ず条件的につけてもらいたいと思います。

【発言者㉑】

復興推進部会の〇〇をしております。〇〇でございます。

先ほど、〇〇も申しましたとおり、災害が発生した後、仮設の道路が開通したその直後、8つの地域がございまして、各地域に入りまして、そして各自治会長さんとも会談会をもちました。いろんな意見が出ましたけれども、それは50項

目にまとめまして、地域懇談会、八代市との地域懇会の中で、御要望なり、あるいは提案なりをしたところでございます。

その後また、別の部会がございましたので、その中で新たな問題点も含めて提供しております。

その中で、ぜひ、今後、復興計画を策定されるにあたりまして、やはり地域の住民の生の声でございますので、ぜひ、その思いを汲んでいただいて、そして、できる限り入れていただければと思っております。そして、坂本町の復興計画の基本理念というのを住民自ら考えまして、そして策定委員会の承認を得る必要がございますが、一応これを作りました。御紹介をさせていただきますと、「みんなを取り戻す。生き生き笑顔のさかもと」でございます。

これは、災害以前よりもさらに活性化した、生き生きとした笑顔溢れる坂本を地域住民は当然でございますけれども、国、県、市の御支援をいただきながら、みんなを取り組んでいこうというような意味合いでございます。

現在、各種報道によりますと、治水対策ということで、中止になった川辺川ダム建設がいろんなところで取沙汰されているところがございます。

以前、ダム建設に対しましては、この坂本町でもやはり賛成、反対、住民の皆さんがそういうふうに分かれて、そして地域が分断したというようなそういう歴史もございます。

そういうことから、私達は今、この基本であります「生き生き笑顔のさかもと」を取り戻すために、地域住民が一致結束して、そして前に進まなくてはならないというふうに考えるところでございます。

どうぞ、この大事な時期に地域が以前の状態にならないような、ダムに頼らない治水対策、そういうものを考えていただければというふうに思います。

【発言者⑳】

〇〇と申します。よろしく申し上げます。

今度の報道を見ますと、ダム建設については民意がダム建設に傾いているというような報道がなされ、また、知事もダムの必要も検討すべきじゃなかろうかというような報道がなされておりました。

知事は12年前に、重大な決断をして、ダムによらない治水ということを出して、今日まで進めてまいりました。一回の水害で、それも100年に一度、200年に一度というような水害でございますけれども、これらも皆さんが知っているように、河床が昔と違って全然違います。浚渫が全然なされないまま今日にいたっております。そういう河床の問題とか、遊水池の問題とか、かさ上げだけやって、以前より川幅が狭くなっている。そうすると水は上にあがって流れが速くなる。それはもう皆さんが御存知だと、そういうことを踏まえて。あと一

つは、これがもし問題化して、この流域の皆さんが、団体住民の皆さんが、建設反対に議論されれば、復興計画が遅れる可能性が出てくるんじゃないだろうかというのを懸念しています。あと一つは、その12年に決断されて、ダムをしないということで、五木村の方達は、村の復興に取り組んでこられたと思うんです。その方達の心を察すれば、いかがなものかと思います。慎重な決断をお願いできればと思っております。

また、今回の復旧で県道のことが皆さんから発言されておりますが、八代中津道線については、深水川口というところが不通でありました。これがもし、通っていたならば、国道219号の原女木から瀬高にかけて、今被害が出ていますけれども、これの代替として、かなり復旧がされるんじゃないかかと思っております。

ただ、先ほどいいましたように、二見久多良木線においては、これは大型の離合ができないというような状態です。

ですから、なかなか機械が入ってこないというようなのはあったかと思いません。それとこれらは又聞きではございますけれども、県道の拡幅工事とかを行うときに、全員の同意がなければ建設はしませんというような話を聞きました。これが本当であれば、大変遺憾なことだと思います。

公共性が重大なものについては、たとえ反対があっても、やはり住民に納得のいく説明をし、そして道路なり、河川なり、ちゃんとしたものを作っていくべきだと思います。今後ともよろしく申し上げます。

【発言者⑳】

坂本町復興推進部会の〇〇を担当しておりました〇〇でございます。よろしく申し上げます。

蒲島知事におかれましては、12年前の判断を、正しかったのか、いやこれは変えないといかんのかというので、多分悩まれておられるというふうに思います。私は個人的な立場で言いますと、あのときの判断は正しかったなというふうに思っています。

というのは、やはり球磨川というのは、もちろん坂本町もそうですけれども、人吉、球磨、芦北、八代、それぞれみんな大きな財産というふうに思って接してきております。それはやはりダムということで、自然環境が壊れるということがあれば、やはり地域住民の財産がなくなるというようなことになろうかと思えます。知事がくま川鉄道の川村駅の近く、あそこが球磨川と川辺川の合流地点です。あそこを御覧になったことはあると思えますけれども、球磨川と川辺川の水質の差を見ますと、絶対これは守っていかないかん。川辺川のあの清流を守っていかないかんというふうに、どなたも感じるというふうに思います。

ですからダムができたとしても、ああいう市房ダムによる球磨川の汚濁の二

の舞を踏まないようなそんな治水をお願いしたいなというふうに思っております。

それからダムによらない治水ということで、頑張ってもらっていただきました。それで河川の改修もかなりされていると思います。もう私達もこれで洪水からは免れるなというような印象をもっておりました。ただ、今をもって反省しますのは、堤防を築いておられます。かさ上げしてあります。

ところがその堤防の位置が、川の方に入って堤防を作っております。ですから何かというと、川幅が狭くなっています。川幅が狭くなっているということは、それだけ水のかさが増えるということで、今後、堤防の築堤の築き方にもやはり工夫がいるんじゃないかなというふうに思います。

それと今回の被害をずっと見ますと、球磨川はかなり蛇行しています。蛇行してまして、外側にいく部分がかかなり大きな被害を受けてます。ですから例えば一律に堤防の頑丈さをするんじゃないくて、そういう外向き、外にあたる部分につきましては強固にして、そして、その内側はそれぞれ今までのような感じで改修していただければ、コストも安くなりますし、全部一律頑丈にするんじゃないくてそういうことでしますとコストも安くなりますし、広範囲で進められるんじゃないかなというふうに思います。

それと先ほど推進部会の〇〇が話しましたように、山が荒れております。これも坂本町だけじゃなくて、芦北もそうです。ちょうど杉の木の伐採の時期がこの近くではその時期にきてます。40年、50年経った山がですね。それを重機を持ってきて、そして道路を作っていくって、そして伐採して、そのまま作った道を埋め戻しもなにもせずそのまましておく、それとあと伐採した枝木をそのまま放っておく、そういうことがあれば、絶対土砂災害の原因にもなりますし、流木の原因にもなります。

そのあたりの規制を強化していただいて、ぜひ、こういうところの監視の目もしていただきたいなと、そうしないとどれだけ川底を浚渫しましても、川から土砂が流れ込んできますと、また同じような土砂の堆積になってしまいますので、このあたりをぜひそういうところに目を向けていただいて、そういうことの方策もぜひお願いしたいなというふうに思います。よろしく申し上げます。

【発言者⑳】

推進部会の〇〇です。よろしく申し上げます。

今回のこの水害なんですが、気象庁の最初の発表は、あの時の雨量は60ミリぐらいというふうな話だったと思うんですが、それが軒並み100何十ミリの雨が降ったと、それでこういう水害が起きたわけです。ですから川辺の上流の水が来て浸かったわけじゃないと思うんです。ここの地に降った雨で水害が起き

たというふうに私は思っております。

ですからそれをどうやって防ぐかということ、先ほどから出ている遊水地の整備とかそういうところにあると思います。それと川底の掘削です。浚渫です。それと本流だけではなくて、支流も私達が子どもの頃は川でよく泳いで遊んだものです。今、泳げるようなところはありません。全部浅くなって、川が支流も全部浅くなっております。ですから支流の浚渫もお願いできればなというふうに思っております。

それともう一つ、樋門が球磨川には何か所か設けてあるんですが、これには鍵がかかっております。これは県の発注じゃないと思うんです。国交省の管轄だろうと思うんですが、それをぜひ鍵をかけないで、地域みんなで守っていくようなシステムを作っていただいで、早く駆け付けたものが樋門を閉めるというふうなことができるようにしていただければ、今回も最終的には浸かったんですけども、その前の逃げる時間を稼げたんじゃないかなというふうに思っております。ですから、ぜひ樋門の鍵を取り外していただいで、誰でも閉められるような状況を作っていただければなというふうに思っております。よろしく願います。

【発言者③〇】

このような機会を作っていただきありがとうございます。

ぜひ、もう一度、二度三度このような機会を作っていただければありがたいです。

私個人のことですが、生まれも育ちもよそですが、両親の故郷である坂本町が好きで移住してきました。現在妻と2歳の息子と今、みなし仮設住宅で暮らしています。

その視点から申し上げますと、熊本県様が作っていただいた今回の説明書の4ページを見ていただきたいんですが、私は球磨川本流の支流である油谷川沿いに家がありました。この球磨川本流から油谷川沿いに約700メートル程上がったところに我が家があります。

その最上部には、九州電力様の油谷ダムがあります。この県が作られた資料には油谷川ダムの降水量といいますか、もちろんこちらは治水ダムではなくて、発電ダムとは承知しておりますが、そういったデータが入っていない。我が家は朝6時前から午後2時までずっと水に浸かった状態が続いていた。こういったデータも、ぜひ、こういった検証会議等に反映していただければありがたいと思います。

2点目です。私は職場である道の駅坂本も被災しました。全ての施設が被災した状態で、再開の見通しは立っておりません。ただこの人吉から八代間の219

号沿いで、いわゆる休憩というかトイレ施設はほとんどない状態となっております。今回熊本県様においてはトイレの復旧という計画に予算がついたと話は聞いておりますが、ぜひ、219号線沿いのトイレ、道の駅坂本に誰もが使いやすいユニバーサルな多目的トイレの建設をぜひ、今後の復旧・復興のためにも、いろんな工事関係者の方も利用されると思いますので、ぜひそういった点のフォローをぜひお願いしたいと思います。

この場を借りて申し上げます。

8月の暑い最中、県の職員の方におきましては、実はボランティアで継続的に道の駅坂本の泥出し、様々な物品出しを手伝っていただきました。

当時、道路事情は非常に悪かったため、私用車ではなく、自家用車ではなく、もちろん公用車でもなく、レンタカーを皆さんで共同でお借りして、継続的に泥出しの活動を手伝っていただきました。

本当にその際、県の職員様からも温かいお声かけもいただきましたし、この場をお借りしてぜひお礼を申し上げます。

最後に坂本町の市民児童員の立場として一言、先ほどもありましたが、やはり坂本町の子ども達、小学生、中学生、保育園児も含めてですが、ぜひ道を少しでも取り戻していただきたく、スクールバスが通ること、小中学校は何とか通えるはず。その点はぜひ県のバックアップをお願いしたいと思います。

【発言者③】

坂本町の方で、小さなミニスーパーを経営しております〇〇と申します。

私は、川辺川ダム建設の話がかなり促進してきているようでございますが、ダム造りについては、絶対反対いたします。

と申しますのは、我々の村は、ダムによって潰された村でございます。

そのダムが、一つ目の荒瀬ダムができた10年後、とんでもない被害を被りまして、それを機に、坂本では一番のメインストリートといわれた新開町周辺がもう全て立ち退いてしまい、あるいは瀬戸石ダム、市房ダム、このダムが増すごとにその被害は、増々大きくなって、あっという間に、坂本では一番の町でありました地域は全くのゴーストタウンの状態になって、人口減少も加速して今みたいな寂しい町になってしまったわけです。

今度のこの7月の豪雨によりまして、我々はあと残った2つのダムからの流れ出した土砂、これが、我々はよその地域は私も見ていませんのでわかりませんが、坂本の町につきましては、これが大きな被害をもたらしたのでございます。

昔、ダムができる以前は、洪水の常襲、洪水ではない、その当時洪水という名前では呼んでいませんでした。

水に浸かった、水に浸かったというような呼び方でみんな呼んでいましたが、

大雨が降って増水しましても、床下、床上の浸水があって、それから引いた後の3日4日、長くても5日後には通常の生活に戻られる状態でした。

ただしダムが出来てから、その後、ヘドロが流れ込むようになってからは、後片付け、あるいは家屋の解体、いろいろな状況が発生するようになりまして、元に戻るには早くても半月、遅いときは一月もかかるような状況がずっと続いてきております。

今度の場合は、当然、降雨量も多くて、増水の量も多かった関係もありますが、いまだ3か月経っても、まだまだどの地域でも元の生活に帰ることはまだできない状況であります。

これは何を申しましても、ダムがもたらす大きな原因だというふうに思い、数十年間これを体験したなかでそういうふうに感じています。

我々の地域については、この球磨川というのは本当に大事な宝なんです。

この地域に大きな工場があるわけでも何もありません。川を恵みとして、我々は大きな生活、恵みをもたらしてもらってきたわけです。

ところが、ダムができることによって、川は死んでしまいました。

川で遊ぶ子どもさえいなくなりました。

釣り人の姿もほとんど見ることはなくなりました。

あるいは川を中心として生業営んできた旅館あたりも全くなくなって、ゼロになってしまいました。

そういうことで、地域が崩壊したのは、球磨川でもなんでも、水でもありません。これはダムです。私の経験から言いますと。

だからダム造りというのは、もう全くやめてもらいたい。そういう考えはやめてもらいたいと思います。

知事は、新聞の報道によりますと、治水協の会合では、市町村、九州農政局、国土交通省、いろいろな団体と懇談を持たれましたけれども、被災住民、あるいは専門家あたりはこのメンバーには含まれずに、あとで希望があれば意見を聞くというようなことで結論出されております。

意見を聞くということは、聞かないのは聞かないまま終わってしまうということでもあります。

我々は、やはりそういう専門家の考え方というのもしっかり知りたと思います。

また、球磨川につきましても、これは対策として護岸工事がなされています。

この護岸工事の工法として、今はもうコンクリートで固めていくという工法です。これが逆に悪い結果をもたらしているというのは、随所にこれ見えています。

例えば今日いただきました、この資料の中にもこれがもうはっきり見えてい

ます。17ページの、これは坂本支所の裏側の写真でございますが、このブルーシートをかけてありますこの周辺は、60年前に十條製紙が、この工場の廃棄物をここに捨てるための場所として作る時に、この川べりに球磨川に流れていますこの石を拾って、川石を拾って造り上げたこの石垣なんです。

これが60年間ビクともせず、その間何回も何回も大洪水というものはありましたけれども崩れなかったんです。

ただこれは、対岸の合志野地区の護岸工事を始めた途端に、これがズレるようなことが発生しました。

今度の場合でもそうです。やはりコンクリートで固めたところは、ずれていますが、この石で、川辺石を拾って造った護岸は、やはりまだ残っています。

こういうふうにして自然の力というのはすごくやはり偉大な、恐ろしい面もあります。偉大な力も持っています。

だから、この護岸の工法にしましても、先ほどもいろいろ話がありましたが、自然を壊さない工法というのは、もう絶対やめてもらいたいというふうに思いました。

【発言者⑳】

坂本まで来ていただきまして、本当にありがとうございます。

復旧・復興に、甚大なるお力をいただきまして、本当にありがとうございます。

移住してきまして10年。積み上げた物全て失う形となりました。それでも私はとても川が好きです。

この検証の資料を見せていただきまして、改めて蒲島知事にお礼を言いたいことがまず一つございます。

荒瀬ダムが撤去されていなければ、もう少しお亡くなりになる方が増えていたんじゃないかという地元の声をお伝えしたい、併せて、撤去していただいたことを改めてお礼申し上げたいと、大変ありがとうございます。

同時に、今回の検証結果をニュース等々で観るにつけて、何か抜けているんじゃないかという思いがどうしても拭い切れません。

何人かの方がおっしゃいましたが、瀬戸石ダムがもし仮になかった場合、僕らはどういう被害になっていたのか、そういう検証を望みます。

もし瀬戸石ダムが水利権更新をせずに、撤去という道を取っていたならば、この資料に載っている何か所かの被害被害に遭わなかったんじゃないか、そういう検証をぜひしていただきたい。

それは川辺川ダム建設の1.何メーターの検証をするよりも、先なんじゃないかと思っております。

1.何メーター水位が下がった川辺川ダムがあればということの前に、瀬戸石

ダムがなければ、水位3メートルぐらい下がった場所があるんじゃないか、そういう検証を僕らは感じています。してほしいと。そういうことがあったんじゃないか。

実際、荒瀬ダム撤去された場所、もしあったらあと数メートル、4メートルか5メートル水位が高かったんじゃないか。そういう思いがございます。

それを思っているのが、坂本の住民の大多数なんじゃなかろうかと実感として、それでもなお、被害が起きたということで、じゃあ、なぜ逃げ遅れたのか、なぜお亡くなりになったのか、川辺川ダムがあったら、この逃げ遅れた方々は逃げ遅れることなく生き延びることができていたのか。

そういう検証も、全くこの資料からは、見えてこないということで、非常に悲しく思っております。

最低限、人が死なない仕組み、ソフト面でもいいんですけども、その拡充を早くしていただきたいと。その中には、なぜこの人達は助かったのか、という人達もいらっしゃいます。

私の知っているなかでも、川遊びが好きで、身の回りにボートを複数持っていて、あの濁流の中に人を助けに行ける技術を持っておられます。

そういう技術は、かなり広範囲の世代の方が持っておられます。

川との付き合いを多くすればするほど、例えば川辺川ダムを造って、川に対する愛着がなくなって、遊びに行く経験を積んでいなければ、そうやって緊急時に人を助ける技術は、地域全体で所有するという事は不可能になってきます。

もし、川辺川ダムがあったら、何人の人が今回の水害で助かっていたのか、川辺川ダムのことを検証する前に、もう少し丁寧な、命が助かった理由、失った理由というのを検証していただきたいと。

私の家族、私は仕事でちょっと離れていたの、家におりませんでした。

ただ、避難基準となる数字、感覚（聞き取れず）を含めて、嫁、子どもに緊急時の対応を伝えて、仕事で離れておりました。

結果的に瀬戸石ダム放流放送、3,500トン、それ以降は放流放送なかったんです。

僕らのところは、4,000トン、5,000トンといたら、何が何でもまず逃げると、そういう基準を持っています。

もし、あの時放送がまともになされていたら、坂本地区でお亡くなりになる方、助けられていたんじゃないかなという疑惑がいまだに離れません。

同時に離れていた先で、橋の上に私はおりました。目の前でお亡くなりになっていった方、生きた状態で流されていくのを目撃しました。

もちろん通報はしましたし、対策はその場でできることはやったんですけども、あの家、もしかしたら、瀬戸石ダムなかったら流れてなかったんじゃない

かと、目の前で流れていった先、瀬戸石ダムにぶつかってお亡くなりになったんじゃないかと、いろんな疑惑を検証してほしいなと思っております。

同時に、今日のお話の中にありましたけれども、泥の問題です。

普通の出水時、小規模の出水、洪水時に溜め込まれた土砂が、上流では洪水被害を拡大させております。

下流では、こういう大出水時にヘドロとなって、地域の再生の足かせとなっております。

あれから100日以上経ちましたけれども、まだ僕は重機に乗って泥かきの作業をする場所いっぱいございます。足りないところいっぱいございます。泥がすごいんです。

そういうところも含めて、ダムについての検証は、水位の高さだけではなくて、地域の経済に与えるいろんな影響を多角的に検証して、その全てを公開の上で、丁寧に聞き取り、もしくは決断をしていただきたいなと思います。

この段階で、川辺川ダムの建設の検証をするというのは、あまりに早すぎると、それより先になぜ台風シーズンが終わらない、まだ来るかもしれない。

それなのに、瀬戸石ダムに溜まった土砂、まだ一回も浚渫作業行われておりません。

冬、冬季だけ土砂を搬出していますけれども、過去最大の水位まで、水位というか河床高まで土砂は溜まっているんじゃないかなと思います。

あと、皮肉なことに、僕はこっちに越してから、一番この時期、川の透明度が高いんです。すごく魅力的な川に見えます。

その理由が、瀬戸石ダムが数年ゲートを開放しているということ、この一点じゃないかなと思います。

地域の担い手が、1,000人規模で流出すると、過疎が進めば進むほど、山を管理する担い手が減ってきます。

地域おこし協力隊を30人規模で、防災と地域を強くするという目的で入れるという戦略を取ってもいいんじゃないかなと思っています。

簡単に言えば、防災の観点でいうと、無事だったちょっと高台の地域を全部オフグリッドコミュニティに変えてしまうと、防災面でもプラスだし、これからそういう地域に魅力を感じて移住してくる人を呼び込むためのスタートも最初の基盤整備になるんじゃないかなと思います。

本当に、いろんな検証がまだ、まだまだこれからだという局面にあって、そのなかで地域に人を戻しながら、地域を健全化していきながら、山を健全化していきながら、水害を減らしていくという方法を取っていただきたいなと思っております。

時間を延長して、こうやって声を聞いていただけることを大変ありがたく思

いますが、まだまだ足りないと思っております。周りに、僕らの世代の若い世代、ほとんどおりません。

ほとんどおりません、本当にです。だけど、まだ魅力を感じて、僕はこの地域に残ろうと思っております。

今から解体される家屋、産業廃棄物になるのをやめて、なるべくたくさん多くの財を地域に残せるような、長野県の諏訪でやっているようなミニリビングセンターとか、古材を地域の再生に使うような、そういう仕組みをこれを機に創設していきたいなとかたちで動き始めました。ぜひ、協力していただきたい。

地域の面白い取り組みと同時に防災を両立していくと、そのなかには球磨川を健全に保つと、それは治水面だけでは決して見れない、将来性のある球磨川のかたちだと信じております。

いい川には人が寄ります。産業が発展して、八代、人吉、球磨村がかつて発展したかのような、賑わいが自然と生まれてくると信じています。

ただ、川が死んでしまえば、そういうことの可能性は限りなく少なくなってしまう。ぜひ、お願いしたい。

文面の中にグリーン・ニューディールとか、少し希望を持てるような言葉も入っております。

いろんな声があるかと思えます。ぜひ、川を殺さずに、死ぬ人を最大限少なくすると、その上で復旧が早まるような仕組みづくりを構築すると。

僕のイメージとする中には、そこに川辺川ダムはございません。

どうしても、どうしても相容れない、これからの気候変動に対応する、防災という観点から極地的で限定的なダムの建設ということで防ぐということに、感謝のイメージがどうしても持てません。

そうじゃない方法で死者を減らして、かつ豊かな、かつて宝と言っていた球磨川の魅力を最大化するあらゆる方法を取っていただきたいと。

いの一歩は、瀬戸石ダムの検証、全く触れていない、意味がわからない、いろんな背景があると思えます。でも、少しでも早く、検証していただきたいなと思っております。

本当に荒瀬ダム撤去したおかげでこの程度の水害で坂本は済んだと、もう肌感覚でありがたいです。本当にありがたいと思っております。

こういう思いを持っている声を聞きに来ていただいて、本当にありがとうございます。失礼いたします。

【発言者③】

はい。本日はありがとうございます。〇〇と申します。

私は、6月に坂本の方に引っ越してきたばかりでした。

引っ越してきた目的なんですけれども、やはり坂本の町が抱える〇〇さんがおっしゃったダムの問題と、あと山荒れの問題、それとあと「やっちろドラゴントレイル」という山を走るスポーツ大会を通じて、坂本町を盛り上げたいと気持ちで引っ越してきました。

そしたら6月に引っ越してきて、4週間で大雨により、僕は坂本で一番上流の瀬戸石駅の前に引っ越してきたんですけれども、家ごと流されてしまいました。家の向かい側にあった瀬戸石駅も破壊的な被害でした。

そして、僕は今、こうやってボランティア活動するなかで、坂本の住民の方々は、やはり瀬戸石駅の前に僕が住んでいたら死んでいたよと、あんな危ない場所にいたら死んでいたよというふうな意見をいろいろもらっています。

その時、僕はたまたま家にいなかったもので、今はこうやってここにいることができます。

そして、山の問題なんですけど、山・自然に詳しい方と坂本の地理を通じて山に登ると、やはり山が荒れていて、かつての土壌とは全然違って、雨による保水力が全くない状態だと聞きました。

そのせいで、支流の木の根っこはむき出しになっていて、それによって川底が上がってしまって、今度大雨が降った場合の被害というのは恐ろしいものがあるというふうに聞いております。その辺の対策も考えていただけたらなと思います。

それと、やはり若い方々がこういった問題を全く知らないというのが現状で、その辺ももっと多くの方に伝わっていければなというふうに思います。

【発言者③④】

〇〇と申します。

今日は皆さんの意見を聞きたいということでお邪魔したんですが、発言の機会をいただきました。ありがとうございます。

荒瀬ダム撤去ということで、知事には大変お世話になりました。いろんな御迷惑をおかけしたこともあったろうかということで思っております。

荒瀬ダム撤去が、坂本のためになるということで一生懸命取り組みました。いろんな思い出があります。

いろんな経緯を経て荒瀬ダムが撤去されました。清流が戻ったということで、球磨川を核とした村づくりに取り組みが始まりました。

球磨川を利用しての仕事をされる方も出てきましたし、移住者も今紹介がありましたように、ちらほら出てくるようになりました。

住民の皆様にご協力いただき、アユやなの事業も始まり、軌道に乗り始めたばかりでございました。

皆さんはつらつと取り組まれる姿は、まさに「生き生き笑顔のさかもと」を象徴する姿であったと思っています。そこへ今回の災害です。

いろいろな人達の思いも飲み込んでしまいました。

私自身は山の方でありますので、自宅にはなかったんですが、合志野に会社の事務所を構えておりまして、流されて全てがなくなってしまいました。

その合志野地区で、復旧の作業に取り掛かったんですが、そこで暮らす多くの人達の、人のいろいろな交流が始まりまして、口を揃えて皆さんおっしゃるのは「ダムはいらない」。正直私は驚きました。

「ダムが出来ればまだひどなとぞ」と、そんな意見を自分が伝えてくれ、という強い口調で私に申される方がたくさんいらっしゃいました。

私は、ダム不要論者ではありませんが、ダムの弊害もよく知っています。

せっかく清流が戻ったというのに、上流の川辺川をダムに沈めるとするのは正直賛成しかねます。

今、ダム建設が前提のような感じで報道が出されておりますし、そのような印象も受けませんが、今後そのようなことで、坂本がどうなっていくのかなということで、大変心配しております。

(以 上)